「マイペンライ」は、タイ語で「なんでもないよ。気にしないで」の意味。アジアの人々のおおらかな心で交流が広がるようにとの願いを表現しました。

マイペンライ 通信

編集・発行　アジア保育教育交流推進実行委員会
（略称：大阪マイペンライ）

２０１１年4月１５日
Ｎｏ．８２
ＴＥＬ　072-645-7772
（森代表事務所）
ＦＡＸ　06-6581-8536
（部落解放同盟大阪府連）
事務局　090-3948-8372（稲葉）

２０１１年度の「国際ボランティア貯金」寄附金助成事業が決定（速報）
バンコク「保育スタッフ研修及び親子保育研修」に助成金

昨年９月に「郵便貯金機構」に助成事業の申請を行ってきましたが、３月１１日付で、「機構」より寄附金の配分が決定したとの通知がありました。申請した内容は２０１０年度の事業として実施している「公開保育・親子保育事業」の継続事業で、６月と２月に計１２か所で公開保育研修・意見交換会を実施するものです。決定は申請内容をほぼ認めていただき、３，１３５千円が配分される予定です。今後は、現地団体との協議を進めるとともに、５月１０日の締め切りに向けて実施計画の提出を行うこととしています。

わかくさ保育園の小椋園長が四月十二日逝去されました。当会の事業に多大な協力をいただきましたことに心より感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

バンコクの６か所で公開保育事業

２０１０年度国際ボランティア寄附金助成事業を実施・・・住民講演会は中止となる

９月の研修事業に続く第２回の事業が、２月１５日から２１日にかけてバンコクで実施されました。今回の研修事業では当初、公開保育研修とともに住民講演会を実施する予定でしたが、お願いしていた講師の事情により住民講演会を中止し、実施計画を変更して、公開保育の回数を増やして実施しました。この研修事業には、子ども情報研究センターから岡本祥子さん、わかくさ保育園から朴喜美子さん、大阪市職民生支部から俳山世紀子さんにそれぞれ講師をお願いし、大阪マイペンライより松尾純代、増田和生がスタッフとして参加しました。（写真は右から講師の朴さん、俳山さん、岡本さんと通訳の松尾久美さん。報告は３～４頁参照）

大阪市従民生支部がタイの農村・スラムへの支援事業を実施

コミュニティーセンターと学生寮が完成

大阪マイペンライの活動に永年にわたって協力いただいている自治労･大阪市従業員労働組合民生支部（昨年、４支部が合併し、現在は市民生活支部）が国際貢献事業として、バンコクのスラムでのコミュニティーセンターの建設と､タイの農村の学校での学生寮の建設を取り組まれました。また、この事業の実施に当たっては､支部独自で現地での交流を数度にわたって取り組まれています｡これらの事業についての報告をいただきましたので､掲載します。（４～８頁）

２０１１年第１９回総会を６月２日に開催します。
会員（個人、団体）の皆さんの参加をお願いします。

日時：２０１１年６月２日（木）午後６時３０分～
場所：ＰＬＰ会館４階　中会議室
議事：第１号議案　活動の経過と方針（８頁に総括の骨子）
第２号議案　２０１０年度決算案と２０１１年度予算案
第３号議案　２０１１年度役員体制案について
第４号議案　「国際ボランティア貯金」事業の推進にについて
第５号議案　その他
記念講演：未定

目次■２０１１年度の助成金決定（Ｐ１）■バンコクで公開保育事業を実施（Ｐ１、Ｐ３～４）■市従民生支部が国際貢献事業（Ｐ１、Ｐ４～８）■第１９回総会の開催（Ｐ１　）■スタディツアーを実施（Ｐ２）■寄附金・会費のお願い（Ｐ２）■第１９回総会総括と今後の方向骨子（Ｐ８）※写真は瀬戸正夫さん他から提供いただきました。

東北関東大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りいたします。　　役員一同

西タイ・ラオスへスタディツアー

２０１０年１２月に実施したスタディツアーには７人の方に参加いただきました。ツアーは１２月１２日に出発し、１９日に帰国する日程で実施し、西タイ（参加者３人）とラオス（同４人）でそれぞれ交流し、バンコクで合流しスラム地区での交流見学を行いました。ラオスへのツアーは３年ぶりの実施となります。

西タイのターク県では、大阪市従民生支部の国際貢献事業で完成した学生寮での交流や、２００９年度の国際ボランティア事業で改修した保育園での交流を実施しました。また、初めてホームステイを受け入れていただき、楽しい交流が展開されました。

ツアー団には、大阪のボランティアグループが作成したタイ語の絵本を持参していただき、現地の保育園や図書館に届けることができました。

・スタディツアーの日程
行程　２０１０年１２月１２日(日)～１９日(日)早朝
事前学習会　１１月２５日、１２月９日　　総括会議　　１月２６日

・ボランティアグループによる作成絵本数

ボランティアグループ	タイ語	カンボジア語	ラオス語
マイペンライ兵庫	４	５	
マイペンライ茨木	９	１	
カンボジアに絵本を送る富田林連絡会	６	９	
アンコー会		２１	５
ストック	１０４	３０	２４
合計	１２３	６６	２９
ツアーで現地に届ける	７３		

「国際ボランティア貯金」助成事業の成功をめざす寄附金のお願い

（趣旨）「国際ボランティア貯金」寄付金の配分金による事業は、２００８年度にスタートして以降、２００９年度、２０１０年度と連続して配分をいただき、事業を進めてきました。これら一連の研修事業を推進するため、「国際ボランティア貯金」寄附金の配分金に加えて、自己資金として、会員の皆様からの寄附金やサワディ基金からの繰入によって補ってきました。２０１１年の事業継続を含めて事業実施には新たな負担が必要で、加えてバンコクの「研修教材開発センター」の今後の運営経費についても補助が必要となっています。

そこで、今後予想される費用を補うために、会員の皆様、ご支援いただいている皆様に、重ねてのご協力のお願いで心苦しいですが、これら事業の推進のための寄附をお願いさせていただくこととしました。趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

寄　附　の　お　願　い

使用目的：タイにおけるシーカーアジア財団と協同して推進する一連の研修事業の経費
「研修教材開発センター」の運営経費
目標額：１００万円
お願い：郵便振替用紙で寄附と明記してお振込みください。

会員（団体・個人）の皆さんへ　会費納入のお願い

当会の活動は皆さんの会費で支えられています。２０１０年度・２０１１年度の会費の納入をお願いします。（複数年の未納がある場合は分割可）

宛名シールの名前の横の数字がすでに納入いただいている年度です。郵便振替や銀行振込でお振込みください。個人の方は年間３０００円、団体は年間１００００円の納入をお願いします。

郵便振替　口座番号　00910－4－18125　加入者名　アジアの保育教育交流推進実行委員会
銀行口座　りそな銀行　桜川支店　普通預金　口座番号　2100152
口座名義　アジア保育教育交流推進委員会

速報　森みどり代表、府議会議員選挙で三選される

４月１０日投開票で実施された統一自治体選挙で、当会代表の森みどりさん（茨木市選挙区）が３回目の当選を果たしました。

2010年度第２回公開保育研修会実施報告

国際ボランティア貯金寄付金事業の２０１０年度の第２回研修事業として、２０１１年２月１５日から２１日の７日間、バンコクで実施した。この事業の最終日の２月２１日に、シーカーアジア財団のスタッフとともに総括会議を持った。その主なまとめは次のとおり。

１．見学研修参加者数

日程		場所	人数
１７日（木）	AM	バーンタンタワン児童施設	１７人
	PM	ラートプラーオ４５保育園	２０人
１８日（金・祝）	PM	スワンプルー図書館	２３人
１９日（土）	AM	パークレット児童施設	１７人
２０日（日）	AM	マハーウォン３地区保育園	１６人（内５人行政）
		チュワパーン図書館	１３人
合計			９６人（事前申し込み８５人）

２月の研修への参加者数は９月の第１回事業に比べると約３倍近い参加者となっている。なぜ参加者が増えたかについては、９月の事業では、「公開保育」というもの、そして、それを見学することのイメージについてシーカーアジア財団スタッフが持てず、センターの登録者に伝えられなかったのではないかとの総括。２月の研修では９月参加者が口コミで広げ、シーカースタッフも体験したので説明できた。２月実施の前段ではこども関連施設を検索し、センター通信と研修参加募集と一緒に、９月に比べて約３倍を配布した。これらのことが参加者の増につながったのではないか。

２．活動の内容にかかわって

こども・親とも楽しく活動に参加していた。また交流会での参加者の評価とても好評であった。受け入れ施設・参加者の声を今後の活動に生かすため再度聞き込みをする必要がある。

講師とシーカースタッフの役割分担については、２月の研修では、担当するマイペンライ講師１人がリーダーとなり、シーカースタッフがサブリーダーとしてついた。また、サブリーダーの活動を他の講師がフォローする形とした。（９月の場合、マイペンライ講師３人のみの活動となっていた。）分担として、見学者対応、交流会の司会と担当者を決め研修を運営した。受け入れ組織との対応や調整も担当スタッフを決め行った。この結果、担当者が決まっていたことでドキドキしながらも責任もって行えた。また、スタッフ自身も自信も持てたとの感想である。

スタッフからの主な意見はつぎのとおり。「仕事が明確になったことがよかった。」「役割が大きくなってやりがいが持てた。」「事前には本来業務が忙しく、十分かかわれなかったが、１日かけての活動のシュミレーションやその日ごとの打ち合わせを行うことでやることが確認できた。」「９月の研修では雑用掛というイメージだったが、今回を役割を担ったというイメージで誇らしい。」「役割が充実していてよかった。」反省点としては「受け入れ組織などのより深い事前学習がスタッフに必要ではなかったか？」「参加受付のシステム化が必要（総務のだれでも対応できるように）。」など。

３　マイペンライ講師から

講師からは、スタッフと連携をもち活動が進めることができとてもよかったとの声があった。交流会の進め方については、グループ学習を取り入れてはどうか、また、参加者の数人ずつが時間を区切ってグループ討議して、互いに報告する形もいいのではないか。その中で、司会者はファシリテーターの役割を持つ。

今回の活動について、シーカーとしてニーズに合った活動になったと考えているのかとの質問に対しては、２００８年からの積み上げとして、活動内容を検討させていただき評価しているとの答えであった。講師からは、「活動の狙いを一つ一つ分析している姿に、自分ももっと分析する必要があるのではと振り返る機会となった。」「スタッフの熱い思いに感激し学ぶ機会となった。」「保育の原点に戻る活動の機会となった。大阪でより一層活動に頑張ろうと思えた。」などの感想が寄せられた。また、「大阪の子ども情報研究センターのような中間支援団体の姿が教材開発センターのイメージかと思う。子ども情報研究センターとの連携を深め学びあっていきたいと思う。」との意見も頂いた。

４　アルニー事務局長の発言

６回ともにとても評価が高かったと聞いている。今回の参加者数・評価を見た結果、タイ社会にニーズがあることが明確になった。が、なかなかこれらのことが施策に反映されない。タイにまで来ていただき、そして学ぶ機会、保育の原点に戻る機会になったと言っていただける皆様との出会いが本当にうれしいと思う。来年度の講師を探す課題も持っていただいているようで今後ともよろしくお願いいたします。

大阪市従民生支部における国際貢献事業の取り組み報告について

≪はじめに≫

この間、私たち大阪市従業員労働組合民生支部では、15 年に渡り『大阪マイペンライ』の活動を支部の独自取り組みと位置づけ運動展開を図ってきました。そして今回、支部解散に伴う記念事業の一つとして、タイ・バンコクのスアンプルースラム地区にコミュニティーセンター、そして同国北西部の山岳地帯の学校に学生寮の建設、また、日本国内での活動として、支部での絵本作成等、私たちにとって大きなプロジェクトとなった国際貢献事業の取り組みをレポートさせてもらいます。

≪記念事業に至った経緯≫

大阪市従では、単組の方針として 2007 年度から組織再編がおこなわれ、民生支部においても、2009 年 8 月に他の 3 支部と統合することとなりました。これにより、これまで支部で積み立ててきた財産の取り扱いを協議しなければならず、そのため、統合前の事前協議として 2008 年 11 月より「支部残余財産検討委員会」の場で議論を重ねてきました。そして最終的には、新たな支部（現在の市民生活支部）に持参する移行金を除いた残りの財産を残余財産とし、今回の事業費として活用しました。

≪シーカアジア財団への支援≫

私たち市従民生支部では、毎年 12 月におこなわれる大阪マイペンライのスタディーツアーや招聘研修等に参加し、タイ、ラオス、カンボジアの方々と親睦を深めてきました。そしてその中でも、タイのシーカアジア財団（以後シーカ）とは、大阪マイペンライや SVA を通し、様々な繋がりを持ちながら、この間お互いの信頼と和を培ってきました。

シーカのスタッフは、タイが抱えるあらゆる問題によって、子どもの教育が迫害されていることに皆が真剣に取り組んでいます。また、それに携わる地域の教育者や住民代表者も何とか改善しなければいけないと日夜努力を続けています。しかし当時、シーカも SVA から独り立ちし、独立採算で財団運営を維持していかなければならない大変厳しい時期であったため、財団の活動に賛同してもらえる支援者を早急に探す必要性がありました。

私たちはそんな姿を目の当たりにし、またこちら側のタイミングとも合致したこともあり、是非ともこの機に協力させてもらいたいと考え、今回の国際貢献事業への展開となりました。

≪国際貢献事業の内容≫

事業内容としては、シーカが早急におこないたいと考えていた 2 か所の建物建設の取り組みを基本的に尊重し、その取り組みに市従民生支部が望む機能を追加してもらうこととなりました。

具体にシーカと取り組む事業としては、冒頭でも述べたバンコク・スアンプルー地区のコミュニティーセンターとタイ北西部山岳地帯でミャンマーの国境にも近いメーラムン学校の学生寮建設です。その 2 か所のうち前者にあたるコミュニティーセンターにおいて、支部が望む「食育推進がおこなえ、そして支部と現地住民とが交流をもてる場」としての機能を設けていただきました。

またシーカがこの 2 か所の建物建設を取り組みたかった理由として、まずバンコク・スアンプルー地区においては、7 年前に大規模な火災が起こり、地域一帯が全焼したことを受けて、国も係わった再開発をすることになりました。しかしこの再開発は、スアンプルー地区が火災によって計画されたものではなく、他のスラム地域においても順次おこなわれているバンコクの街づくりの一環で、いずれこの地域も再開発される予定となっていました。

他の地域での再開発では、入り組んだ迷路のような平屋建て家屋を取り壊し、広々とした道路を設けた高層アパートに姿を変え、とても衛生的な環境へと生まれ変わっていますが、その一方、これまで平屋の軒先で店を構え、生計を立ててきた多くの住民にとっては、仕事ができなくなったり、またアパートの高層化で、他の地域から移り住む人が増え、これまでのコミュニティーが無くなったりと、再開発前からこの地域に住む人にとってはデメリットも多くあったようです。

このようなことを踏まえ、スアンプルーの地域住民は、再開発の設計段階から街のあり方について要望をおこない、家屋の形態については、平屋と高層アパートを両立させ、火災前に店舗を構えていた方にも、これまでと同様の生活が送れるように配慮がなされました。しかしもう一方、地域コミュニティーについて要望をおこなってきた、地域住民が集える場の建設については、国から予算の執行がなされず、有志での建設という取り扱いになりました。

これらの状況からシーカでは、地域コミュニティーの継続と青少年育成の観点から、この地域に新たに移り住む住民も集えるコミュニティーセンターが必要であるとし、その建設を切望していました。

次に、メーラムン学校の学生寮建設においては、地方の教育政策として、各村に保育所と小学校 2 年生までの教育施設が完備され、それ以上の教育については、この学校にて、高校 3 年生までの教育を受けるシステムとなっています。しかし遠いところでは 30km 以上離れた村から通わなければならない子どももおり、また交通機関も愚か、道路も整備されていないところも多いため、ほとんどの子どもが徒歩で通わなければならない状況です。当然のことながら平坦な道ではなく、アップダウンも厳しい環境となっており、これを毎日通学するのは実際不可能であるため、そのような状況の子どもにおいては、学生寮が必要不可欠となっています。この学校では、4，5 棟の寮が敷地内に建てられており、1 人半畳ほどのスペースの中、学生がすし詰め状態で生活していますが、この状態であっても、まだ寮を必要とする学生の需要に供給不足のようです。

このように学生の教育の機会を担保するためにも、もっと寮を増やす必要性があったために、この学校への支援を優先的な取り組みとしたようです。

≪タイ視察研修①≫

これらの国際貢献事業が決定し、早速事業がスタートすることになりました。またそれに伴い支部においても、組合員に募集を募り、事業の進捗確認の視察と現地住民との交流を目的とした「タイ視察研修」を3度に渡り開催してきました。

最初の視察研修においては、2009年9月に5人が参加してきました。現地状況としてスアンプルーのコミュニティーセンターでは、建物の骨組みがおこなわれている所で、まだどのような間取りになるか分からず、設計図面を見ながら詳細説明を受けました。その際、こちらが要望をしていた食育推進のための厨房機能に若干の祖語があり少し変更をお願いしましたが、その他は問題もなく、概ね順調に工事は進んでいました。

また、メーラムン学校の学生寮においては、基礎工事が始まった最中で、こちらも図面を見ながらの説明となり、ベッドの配置や学習室の設置、そして今後のタイムスケジュールなどの確認がなされました。

次の2度目においては、年明け2010年1月に4人が参加してきました。この時の視察研修では、スアンプルーのコミュニティーセンターが完成し、私たちの訪問に合わせ、とても盛大で気持ちのこもった落成式を住民総体で催していただきました。コミュニティーセンターの出来栄えも立派な2階建ての施設となっており、1階部分には、20畳程の集会室と、その横に8畳程の住民代表者らの部屋が隣接し、そしてその奥に15畳程の調理室が完備されています。2階には、その3つの部屋の仕切りを取った広いスペースが設けられ、ここで青少年育成や住民の文化・カルチャースクール等の催事がおこなわれる予定となっています。

一方メーラムン学校の学生寮は、屋根と壁の建設が終了し、次に扉や窓の取り付けと内装に取り掛かる段取りとなっていました。しかし視察最中に図面を見ながらチェックしていた所、出入り口扉位置が大きく違っていることが判明、すぐさま校長に報告し、業者にやり直しをお願いしました。担当者曰く、「地方ではこのようなことが頻繁にあり、こまめにチェックをしなければならない。」との事です。

そして最終の視察研修は、2010年11月下旬に4人が訪問してきました。3度目となるこの回の目的は、メーラムン学校の学生寮完成に伴なった落成式参加のためです。当初予定では、前回の訪問時にコミュニティーセンターと同様、落成式をとりおこなうこととなっていましたが、度重なるトラブルで大幅に建設が遅れ、また私たち自身も視察日程が合わなかったこともあり、この時期にずれ込んでしまいました。

完成された寮には、総勢38人の女子高生がすでに入寮しており、彼女たちも参加しての学生寮の落成式となりました。その式では、始めに各代表者あいさつ、そして支部寄贈が示されたプレートの除幕などがおこなわれ、最後に記念撮影をして終了しました。その後おこなわれた寮内の視察では、他の寮にはない学習室やベッドなど、新たに工夫が施された点についての話を受け、引き続く入寮学生との交流会では、この寮が学校の中で特別な寮となっていること、そしてこの寮に入寮することが、学生の中でステータスになっていることを聞くことができました。私たちは「なぜステータスになっているか？」を尋ねてみると、1つ目の理由としては、この寮への入寮資格基準が設けられたこと（自分自身で身の回りの世話ができること、成績が優秀であること）、そして2つ目は、学習室の完備や個人の私物を収納できるスペースが確保されている等、設備面が充実していることが挙げられていました。先生曰く、「この寮に入寮したことで、彼女ら自身の自覚も目覚め、より一層勉学に励むようになり、成績もほとんどの学生が上がった。」とのことでした。

ただこの学生寮建設で問題が解決された訳ではなく、まだまだ多くの学生は寮を必要としています。

今回、私たちの大きなプロジェクトは一旦区切りとなりますが、また様々な手法をとりながら、新たな支部でも取り組み継続をしていき、教育の機会を望む多くの学生の力になりたいと考えています。

≪タイ視察研修②≫

今回の視察研修では、タイの人々との交流も一つのメインテーマと掲げ、以下の 4 回に渡り、「食」で交流を図ってきました。

第 1 回　1 回　　（場所：シーカ事務所、内容：バナナの春巻き揚げ）
第 2 回　2 回　　（場所：スアンプルー地区、内容：ぶっかけ素麺と白玉入りぜんざい）
　　（場所：メーラムン学校、内容：白玉入りぜんざい）
第 3 回　1 回　　（場所：スアンプルー地区、内容：手巻きすしと握りずし）

この 4 回のうち、今回は第 3 回視察研修の際、スアンプルー地区で手巻きすしと握りすしの食交流をおこなった内容について報告します。

この第 3 回視察研修でもハードなスケジュールではありましたが、コーディネーターの事前計画には今回もスアンプルー地区の方々との食育交流をおこないたいとの打診がありました。この食育交流においては、前回の『ぶっかけ素麺と白玉入りぜんざい』が大変好評だったこともあり、「今回も是非とも交流をおこないたい。」との地域住民の強い意向で再度実現することになりました。

依頼を受けた当初、こちら参加メンバーの打ち合わせでは、焼きそばを振る舞うことで決定をし、材料に関してはバンコクで現地購入することにしていました。実は近年バンコクでは日本のスーパーが進出してきており、ほとんどの日本の食材が揃うようになっています。今回スアンプルー地区には、日程全 4 日間の最終日に訪問することになっており、バンコクには、その前日の夕方に（メーラムンから）戻ってきました。バンコクでは比較的楽な日程で、予定としては最終日のスアンプルーの食育交流だけでしたが、シーカからの強い依頼による急きょの訪問や、その後の交流会など、蓋を開けると慌ただしい日程になってしまいました。食育交流の買い出しにおいても夜 9 時位にやっと時間ができ、食材購入することとなりましたが、タイに来てから現地の希望で「是非とも手巻きずしをお願いしたい。」との依頼を受け、こちらも急きょメニュー変更することになりました。

食育交流当日は、朝 9 時にスアンプルー地区へ到着した後、すぐにコミュニティーセンター2 階で歓迎会が開催され、はじめに住民代表者が「私たちの活動に支援いただき、またこの間、良い関係を構築して頂いたことも大変光栄に思い、感謝しています。」との挨拶があり、そして歓迎の意を表して、地域の青少年によるタイ民族舞踊を披露して頂きました。

その後場所を 1 階に移し、調理室にて「手巻き寿司」の準備に取り掛かり、米の水分量や寿司酢の合わせ方など、地域の方々にレクチャーしながら約 1 時間強をかけ楽しく調理をおこないました。そして次にタイの方からは、「ソムタム」というタイ料理を教えてもらいました。この「ソムタム」という料理は、まだ熟していない青パパイヤをメインに唐辛子やパクチーを混ぜ合わせたサラダで、作り方は、まず木の器に調味料、香辛料、そして唐辛子を入れ、木の棒で軽く砕いていき、次にパパイヤなどの野菜を随時投入し、馴染んできたら、器に盛り付け完成の手早くできる簡単な調理です。しかし、いざ作らせてもらうとなかなか難しく、1 人ひとり挑戦させてもらいましたが、どれもが違う出来栄えになってしまいました。

最後に、お互いで作り合った料理で交流会がおこなわれました。手巻き寿司と握り寿司では、具材として卵、ツナ、サケ、ボイルえび、カニカマ、アボガドなどを用意し、地域の皆さんに試食してもらいました。やはり寿司は、今タイで流行っていることもあり、かなりの量を用意していましたが、ほとんど余らず、ほぼ完食してくれました。また、タイ料理のソムタムも唐辛子を控えてくれたようで、日本人向きの味になっており、思いの外美味しく頂けました。

料理を食べ終わると交流会の終了予定時刻も大幅に過ぎ、大変アットホームな雰囲気の中、お別れをむかえることとなりました。最後に地域代表者や住民 30 人程の方々とコミュニティーセンターを

バックに記念写真を撮り、スアンプルー地区をあとにしました。

≪最後に≫

３度に渡る視察で多くの住民と交流を交わし、言葉の壁を乗り越えた友人関係が築けたと感じています。またこの報告では書ききれていないホームステイでの出来事やマイグラントの学校での様々な触れ合いも、とても感慨深いものとなりました。今後においては、今回参加した者だけではなく、多くの組合員とも交流が広げられるような、幅広い取り組みも模索しながら、より一層親交を深め、マイペンライの理念でもある「共に生き、共に学ぶ」を実践していきたいと考えます。

最後になりましたが、今回の視察研修でお世話になりましたＳＶＡの松尾さん及びシーカアジア財団のスタッフの皆様、そしてタイの各地域で私たちを快く受け入れをして頂いたすべての方々に感謝を述べ、レポートを締めさせて頂きます。

第19回総会「総括と今後の方向」にかかわる骨子案

下記の内容を豊富化させて、総会までに各団体、会員の議論をお願いすることとします。

１　招聘研修事業

現状

・　１９９３年から２０１０年で１８回実施
・　３カ国、延べ１００名（通訳同行含む）を超えるスタッフを招聘。
・　現場で受け入れることで、大衆レベルでの顔の見える交流が実現した。
・　受け入れの体制作りが困難となり、１８回の実施の中で、過去に受け入れた組織が繰り返し受け入れざるを得ない状況となっている。
・　費用・要員の確保が困難となっている。
・　同行通訳の確保が困難となっている。大阪での通訳の確保は、人材・費用面で困難。
・　現地の招聘研修のついての要望が不透明で、大阪からの一方的な招聘となっている。

検討方向

・　招聘国を現状の１年２カ国から、１カ国に絞り込む。
・　招聘期間の短縮を行う。
・　３団体受け入れ方式を見直す。

２　スタディツアー

現状

・　１７年間で延べ２５０名を越える。
・　参加者の減少傾向と、１カ国にしぼらざるを得ない状況がある。
・　受け入れ国に、受け入れ体制の確立などの負担をかけている。
・　ツアー日程が顔の見える交流という趣旨から解離しつつある。
・　少人数のため参加費がかさむ状況があり、より一層の参加希望者の減となっている。

検討方向

・　行き先国の絞り込み。２カ国から１カ国へ。
・　目的化したツアーの企画。
・　希望者にはＳＶＡツアーを紹介する。

３　絵本活動

改善と検討の方向

・　著作権問題に伴い、絵本のタイトルの限定化
・　翻訳絵本の品質の改善
・　絵本を送る活動の「方式」について

ＳＶＡのＡセット方式への参加は困難であり、カンボジア語（クメール語）およびラオス語の絵本については、独自に現地に絵本を届けることは出来ないとの認識で、両国については絵本を送る活動については断念する。

タイ語については、上述の改善方向について努力しつつ、タイのシーカーアジア財団と協議して活動を続けることとする。

・　各ボランティアグループの活動について
　タイ語の絵本については従来どおり、当会として集約し現地に届ける。

４　奨学金のとりくみ

・従来どおり、タイのＮＧＯスタッフへの奨学金として現地団体に運用を委託していく。